

# 動労「本部」反動分子の デッチあげ告訴による不当逮捕糾弾



# 日刊労働者千葉

81.7.19  
No. 90

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五～六・公衆電話（22）七二〇七

## 動労を、鉄労以下のマル生推 進組合にしてはならない！

全国の動労組合員のみなさん。七月十五日未明、千葉県警・船橋署・千葉中央署は、動労千葉本部・津田沼支部事務所および六名の組合員宅を強制家宅捜索し、片岡支部長以下六名の津田沼支部役員・活動家を不当逮捕し、七月十七日、千葉地裁は「十日間の勾留・接見禁止」を決定しました。この動労千葉ツプシを唯一の目的とした権力の攻撃の中に「本部」反動分子の身も心も権力に売り渡した「告訴」の本質が鮮明に突き出されています。

### 告訴に対し動労内にも批判の声

「本部」反動分子は、「六・一二事件」そのものが全くのデッチあげであることをごまかすために、動力車新聞やピラ等で必死になってデマキャンペーンを繰り返しています。

しかし警察権力に告訴するという、どう説明しても説明のつかない厳然たる事実については、全く沈黙しています。

第三七回全国大会においても、全国の心ある代議員から、「いかなることがあろうとも、労働運動に権力を介入させる告訴という手段はとるべきではない。」という意見が出されています。また多くの激励やカンパが全国の動労組合員から寄せられています。

これに対し、「本部」反動分子は、「権力と一体となった動労千葉にはこれしかない」という「本部」答弁に代表される、全くマンガ的な主張を繰り返しているのです。

### 「むかし鉄労、いま動労」の実態

「むかし鉄労、いま動労」は、千葉管内の国鉄労働者全体の合言葉になっています。

「動労千葉地本津田沼支部書記長」を僭称する東洋大学生 革マル 嶋田誠等は、津田沼電車区において、「勤務の厳正」を当局に申し入れ、当局のスパイとして職場の、労働者間の、日常業務上のあらゆることを当局に密告し、これを受けた当局が、「出勤が一分遅い」などと動労千葉や国労組合員に対する締めつけを強化してきています。まさに、「動労」こそが津田沼における第二マル生攻撃の先兵となっているのです。

労働安全衛生委員会の日程を通報し、神保・大久保等革マル分子のナツパ服を着せた革マル学生ゲバ部隊を先頭にしたり「四・一七」津田沼襲撃を先導し、青竹・ボール・カケヤ等で片岡支部長の頭がい骨々折をはじめ、多くの津田沼支部組合員



6名の不当逮捕を糾弾し、全支部より300名がかけつけ緊急抗議会。決意表明した山下（右）

に重傷を負わせ、たこの嶋田が、コロビ屋となっではじめて権力は、この六名の不当逮捕に出てきたのです。

### 完黙を貫く六名の仲間

動労千葉との組織争闘戦に完全敗北した「本部」反動分子と、三里塚・ジェット闘争をはじめとする敵・権力中枢の軍事大国化路線の根幹に迫る闘いを貫徹しながら、介入の口実を与えない動労千葉の強固な組織力に対する権力の憎悪、これが今回の六名の不当逮捕攻撃の本質なのです。

動労千葉は、執行部十名中六名が逮捕されたことに屈せず、暫定執行部を確立し断固闘い抜いている津田沼支部を先頭に、「動労千葉を脱退しろ」「役員をやめろ」「お前の女房は勤務先をやめさせられたぞ」という権力の攻撃に屈せず、敢然と完黙の闘いを貫徹している六名の仲間を守りきり早期釈放をかちとるべく、全職場における減産・非協力闘争を貫徹しつつ、全支部からの圧倒的動員をもって、全県下にわたる街宣、各警察署・地検・地裁に対する抗議行動、六名に対する激励行動を展開しています。

全国の動労組合員のみなさん。

動労千葉は、一三〇〇組合員全体が、今回の権力・「本部」反動分子一体となった攻撃に対する闘いが、八〇年代労働運動にあっては不可避の闘いであることを銘記し、このような根拠のない攻撃に出て来ざるを得ない権力と「本部」反動分子のせい弱性を徹底的に追及し、勝利する確信に燃えています。

動労を鉄労以下のマル生組合にしてはなりません。ともに決起しようではありませんか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！